

2024 年 6 月 26 日

学校法人三幸学園
名古屋ビューティーアート専門学校
校長 古渕 泰弘 殿

学校関係者評価委員会
委員長 伊左治 資生

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 伊左治 資生（株式会社バディ 取締役マネージャー）
- ② 梅崎 美和（株式会社セイファート マネージャー）
- ③ 松野 心音（株式会社バディ 第 18 期卒業生）
- ④ 桃田 千里（コーセー化粧品販売株式会社 第 15 期卒業生）
- ⑤ 浅野 栄介（有限会社太閤オフィスサービス 代表取締役）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 26 日（会場 名古屋ビューティーアート専門学校 別館 201 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人三幸学園名古屋ビューティーアート専門学校

自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 植野 いずみ

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 伊左治 資生

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

1. 主体性を育む教育の向上

→マナー・ルールの本質を理解し、今どのような行動や発言をすべきか主体的に考えられる生徒の育成に取り組んだ。Z 世代の生徒に主体性を持たせるために意欲高く物事に当たれるよう、「指示する」のではなく繰り返し動機づけ、自発的な行動を引き出した。またその行動を「理解し承認する」という方向に教職員の意識もシフトチェンジすることに注力した。

2. 学習者中心の教育(成長実感が得られる教育)の定着

→生徒満足度が高く、卒業時に成長実感が得られる教育を行うため、仲間と議論し、探究活動を行いその内容をプレゼンテーションするなど学習者中心の教育を定着させることに尽力した。取り組む上で生徒の心理的安全が担保できる環境作りにも配慮した。また教員は、教科書を丸暗記させるだけの授業内容にとどまらず、その知識や技術が必要な場面について経験を交えて伝え、汎用的な技術・知識の学習であることを動機付けし学習意欲の向上に努めた。

3. 「技能と心の調和」教育理念に基づいた指導の徹底

→生徒への基本的生活習慣(礼儀マナー・環境整備等)を指導することが、美容技術・知識を指導することと同等に必要な教育であることを教職員間で再確認。学ぶ環境は皆で作っていくものという雰囲気・風土を醸成、生徒・学校全体に浸透させた。

② 学校関係者評価委員会コメント

学生は、とても礼儀正しい。その理由として、教員の指導力が挙げられる。たとえ学校関係者以外の前であっても、間違った言動に対してリアルタイムに指導されている。他校では見ない光景であり、この指導が礼儀正しさやマナーに繋がっている。(梅崎委員:全学科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校の理念・目的・育成人材像について、今年度の新入生とその保護者については、入学前のオリエンテーションを通して伝えることができているが、保護者に対してのアプローチが単発であることは課題である。

業界のニーズに関しては、従来の企業様との関係性の中から情報収集され生徒育成の指針となっており、適切に行われているが、新任教職員の増員により、関連企業との関係性づくりが一部教職員にとどまっていることが課題である。

② 今後の改善方策

学校の理念・目的・育成人材像については、生徒だけでなく保護者に対しても定期的な通信(SankoGateでの連絡、学期始めにお送りするご連絡文等)で発信を行い、理解を深める。

業界のニーズを情報収集できる教職員の人材育成については、教職員研修や OJT 指導に取り組んでいく。

③ 特記事項

アフターコロナにおける教育現場にふさわしい教育指導方法について検討を始めた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

新入生はコロナ禍を経ての学校生活であり、人間性が育っていないことも懸念されたが、ガイダンスの受講姿勢などを見ると、うなずきなどのリアクションがしっかり取れている。教育理念、教育目標、人材育成像は理解されている。(梅崎委員:全学科について)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

目的や事業計画に沿った運営方針は策定されており、運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され運営されているが、情報システム化による業務効率化についてはスムーズな活用まで至っておらず課題である。入学者は小学生の時から教材としてタブレットを配布されて授業を行ってきた。ICT 化を標準として順応している世代であるため、教職員の ICT 教育にも力を入れることが課題である。

② 今後の改善方策

情報システム化の活用利点を浸透させると同時に、ICT 研修を実施することでスムーズに活用できるようにし業務効率化を図る。VR 授業・デジタルテキストの導入など新しい教育ツールについては、一定の効果が体感されているが、引き続き検証は必要である。

③ 特記事項

物価上昇に合わせて給与がベースアップされた。
より納得感のある評価制度・給与制度とするべく新人事制度が策定された。

④ 学校関係者評価委員会コメント

学校教育の現場では、生徒とのコミュニケーションを取りながら、注意できる信頼関係を築く必要があるため、新入職員の教育はそのような教務の方法に偏りがちだが、VR など最先端技術の教育ツールや ICT 教育研修に力を入れている点は学校として評価できるといえる。また社会情勢を鑑みた人事制度は評価できる。（伊左治委員：全学科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

次年度に向けてさらなる生徒数の増加が予測される。学校規模拡大に伴う負担を軽減させ教育の質を向上させるためにも幅広く教員採用（確保）に努めていくことが課題である。

② 今後の改善方策

卒業生の中には美容師免許取得後、結婚などライフスタイルの変化によってリタイアしている休眠美容師が多くいるため、Sanko リンクを通して求人を出すなど、三幸学園の人材育成マインドを理解した卒業生を教職員に迎える施策を積極的に進める。

③ 特記事項

新しいコース開設に伴い、専門性の高い教員確保のため、多数の企業連携をしていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

在学していた時より生徒数も増えているが、City & Guilds の導入やカラーリストコースの増設など学校としてさらにブラッシュアップされていて誇りに思う。美容師としてシャンプーを生徒に教える側になり、より専門性の高い教員の確保が必要であることを感じた。（松野委員：美容科・ヘアメイク科について）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

退学については、精神疾患、目標喪失、人間関係という理由が多い。退学率低減に向けた教務対応策の実施が課題である。資格試験については、美容師国家資格の筆記試験対策が課題と考える。社会に出て必要な生徒の社会人基礎力の向上に向けた取り組みと就職先企業との良い関係性維持は継続課題である。

② 今後の改善方策

企業との関係構築を図るべく、企業訪問等積極的なアプローチを進める。具体的には卒業生の動向を確認する、自校開催の企業説明会への参加依頼等、様々な面での結び付きを持てるようご依頼する。

退学者低減については、学年担任・複数担任制を導入し、生徒・クラス状況を早期共有して複数の担任で対応を行っていくとともに、職業観を醸成する行事、目標喪失しないための講話など導入し実施していく。退学者の10名に1名が通信制高校卒業生であるため、通信制高校卒業生に特化した行事(2年生との交流会)を開催する。

美容師国家資格の筆記試験については、学力格差もあり指導が難しいが、早期から取り組みをして習熟度確認しながら進めていくカリキュラムの策定と早期から全国模試を行い、苦手科目を把握できる状態にして問題点をクリアさせていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

在学中に多くの資格を受験して取得するが、様々な分野の検定を満遍なく取得できることは、就職後の自信につながる。全員受験が設定された検定は、学生時代には対策が厳しいと感じたが、授業と連動して高い合格率をキープしていることが素晴らしい。(桃田委員:トータルビューティー科・エステティック科について)

City & Guilds は資格取得に目が行きがちだが、美容師の「人として」「社会人として」のマナーを大切にすることが基本にある。学校生活で、技術面だけでなく、人間性を学ぶことも大事にしているビューティーアートの教育理念に沿うものであり、一層の就職率向上につながるものといえる。(梅崎委員:全学科について)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

同窓会LINKの定期的な配信を含め、新しく導入した卒業生LINEの運用も進め、卒業生との関わりの幅を広げていくことが課題である。卒業生の就職状況の把握については、合理的な把握方法の検討が必要である。課外活動については、不定期にご依頼を受けたヘアメイクイベント等に参加しているが、積極的な産学連携につなげていくことが課題である。

② 今後の改善方策

卒業時に同窓会LINK、卒業生LINEの登録を図り、卒業生との関わりを定着させる。卒業後も学校との関わりを継続し、独立支援や学びの継続などの卒業生支援を周知していく。学校の中だけが教育の場と考えるのではなく、広い視野にたった包括的な支援を意識・実践する。そのためには、業界との産学連携や様々な団体の主催する催しなどに任意参加できる体制(特別活動など)を整えていく。

③ 特記事項

能登半島沖地震に被災した生徒には経済支援を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

学園として能登半島沖地震だけでなく、熊本、仙台の震災等で被災した学生の支援を行っていることは、学園の社会的な使命を遂行していて評価できる。また愛知中央美容専門学校の経営破綻に伴い、学ぶ機会を失った学生を学費減免として受け入れたことは社会的にも大きな反響を呼んだ。非常に高く評価できることである。(梅崎委員:美容科・ヘアメイク科について)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

大きな課題はないが、経年劣化による校舎設備等の補修などが発生した。

② 今後の改善方策

これまで通り、定期的な点検および適宜修繕を実施する。

③ 特記事項

レセプションから誘導、施術・接客まで学ぶことができる施設を有効利用し、サロンワークの授業で外部のお客様をお招きして実践的な職業教育を実施する。就職後に役立つ実践的な内容の授業であるだけでなく職業観がより深まることで退学率減少などの効果も期待できる。

昨年度から再開された海外研修(ヨーロッパ・韓国)も大変好評である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

状況に応じて適宜、修繕を実施されている。修繕箇所が発生したら都度対応するのか、予算取りをして前倒しで行うのか、検討する必要はある。（浅野委員：全学科について）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

愛知県の規定に沿って適切に募集活動を行っているため大きな課題は無い。定員充足による募集停止が想定されるため、その際の対応は慎重に行う必要がある。

② 今後の改善方策

A0 入試や特待生入試等の入試方法について、説明不足から誤解を招かぬよう説明・対応に努め、受験希望者の不利益にならないように配慮していく必要がある。

募集定員の充足状況については、HP や SNS への掲載とオープンキャンパスで早めに告知を行う。また高校へは早めに告知(周知)して、信頼関係を損なわないよう配慮する。

③ 特記事項

トータルビューティー科にはメイク・エステ・ネイルの技術や知識を学んだあとに、プラス1年で美容師免許を取得できる研究科がある。美容師免許取得のニーズが高まっているため、募集活動の際広く知ってもらうこと広報活動を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

学生が年々増えている学校は限られている。期待される学校として、より一層新しいコースや資格について打ち出しをし、広く学校のことを知ってもらえる広報活動が望まれる(伊左治委員:全学科について)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守については、職員に対して一層理解を深めるための働きかけを継続する必要がある。

労働基準の遵守については、特に時間外労働について留意すべきである。

② 今後の改善方策

コンプライアンスの遵守については、各種ハラスメントのガイドブックを活用し全教員に研修を行う。

個人情報の取り扱いについては、個人情報遵守のための動画視聴を義務付ける。

時間外労働の削減やフレックス制度の積極的な実施を促すため、各種新情報システムツールを用いて業務削減を行っていく。

③ 特記事項

18歳成人に法令が変更したことに伴い、「保護者」は保証人に変更している

④ 学校関係者評価委員会コメント

コンプライアンスと労働基準法について遵守されている。最近問題になっているカスタマーハラスメントについてサロンでも研修を実施している。色々なハラスメントについて講習をする必要がある。（伊左治委員：全学科について）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

教育効果を得ることができる地域貢献活動に積極的に参加すること、新規活動の参加機会を増やすことが必要とされる。

② 今後の改善方策

技術提供や接客を通して教室内では学ぶことができない教育効果が期待できるため、サロンワークの授業や模擬サロンなどの行事を通して社会貢献・地域貢献を行っていく。また地域社会の一員という自覚をもつことで、近隣の方への配慮や思いやりの心を醸成する。今後は技術提供する地域貢献活動のみならずボランティア活動も特別活動を認め奨励していく。

③ 特記事項

イオンリタケと提携し、地域の方々にヘアメイクやエステ、ネイルを提供した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

イオンとの産学連携により、大きな会場で接客を学ぶことができたことは評価できる。今後もサロンワーク授業を活用し、多くの地域貢献を通して授業で学んだことを修得し社会に出ていただきたい。（桃田委員:トータルビューティー科・エステティック科について）

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の入学は毎年数名程度、積極的な募集活動は行えていないことが課題である。

② 今後の改善方策

今後留学生が増加した場合を想定し支援体制作りを進めておきたい。また、留学生に対する進路(就職)斡旋の強化と情報収集は行っていきたい。在日外国人は今年度多数入学しているが、生活習慣や価値観の違いから欠席などが多いため、支援体制を整える。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

今後様々な分野で働き手が不足する。多くの留学生の受け入れは社会としても必須である。国際交流の促進や留学生受け入れ態勢を強化することが望まれる。(浅野委員:全学科について)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(委員より総評)

概ね全項目について評価でき、また検定合格率の向上や退学者防止への努力改善の取り組みが見える。また貴校生徒は挨拶・礼儀ができており、サロン就職後の期待も高い。今後も業界との連携をより深め、現場状況を把握いただくことを願う。就職活動は早期化し、またそのためのICT活用も大きく変化している。教員の情報が生徒の将来を左右するため、情報のアップデートも重要と感じる。

(学校側より)

自己評価の結果は概ね問題ない。1年間を総合的に見ると新型コロナウイルス感染症から完全に脱却し、以前の学校生活が戻ってきた。実技練習をしっかりと行うことができ、各種検定・国家資格の合格率や就職率アップなど、前年より良い結果が出せたと言える。これを継続していくためにも自己評価を基に細部までしっかりと点検・確認し、業界や企業、地域から必要とされる学校(人材)になるために課題を把握し、学校運営を行っていく。

2024年度はチーム担任制を導入し、クラス格差をなくし学習しやすい環境作りを目指す。そのために教職員間の情報共有を活発に行い、2WAYのコミュニケーションをしっかりと取っていく中で、情報を正しく認識し、意識の統一を図る。学園のミッション・ビジョン実現と美容分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向けて体制強化していく。